

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここっとなico		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 15日		～ R7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R7年 2月 15日		～ R7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画書作成にあたり、サービス担当者会議を開催し、児童発達支援管理責任者だけでなく職員が日頃の様子や強み・弱みをしっかり把握し児童の最善の利益となるようしっかりと意見を出し会議の場を作っている。	児童が施設にいない時間を上手く利用し会議をひらくことが出来ている。 また、日々の療育の結果をしっかりと残り継続的な視点かつ次の目標を意識しつつ療育に当たっている。	日々の送迎時に保護者様からのニーズについて共有はしているが、その項目について管理できる用紙を作成。 個別支援計画書作成時の参考としておく。
2	モニタリング後の個別支援計画書については、児童発達支援管理責任者より職員間の共有があり、その個別支援計画書に基づきニーズに応じた支援を日々の療育にしっかりと反映している。	療育記録は時系列にて実施担当者にて結果や様子が記載されていて進捗の様子が他の職員からもわかりやすくなっている。	療育記録は記載されているが、特に共有すべき事柄については日々の終礼にて共有されている。
3	日々の児童の様子については、送迎時に保護者へ丁寧な説明・共有を行っている。	療育を担当した職員、そうでない職員も児童の様子をしっかりと観察し送迎担当者へ連携することが出来ている。	児童自身の気持ちをしっかりと理解すべく、職員としっかりとコミュニケーションをとっていく。気持ちの変化などについてもしっかりと保護者共有出来るよう丁寧に対応している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営は現時点不十分である。	オープンして間もない施設となり、通所児童のための円滑な施設運営に力を入れていたため。	・施設近隣公園での活動の際は、地域の方々にご挨拶し施設を知っていただく機会とする。 ・役所(自治体)の活動(イベント)への参加を増やし、地域住民との交流を図る。
2	支援終了後の職員間の共有を誰が見てもわかるよう書面にして残しているが口頭での共有を随時することができていない。	全体共有の時間が取れず各自確認する流れとなっている。	現在も特に共有すべき事柄については終礼にて共有しているが、それに加えて以前に加えて変化があった様子についても併せて共有することとする。
3	施設ブレイルームが狭く感じる時がある。	児童の創作的活動において、活動の幅が広範囲となっていることがある。	活動に合わせたおもちゃや机の配置換えを行い、安全に児童が活動できるよう環境設定を行っている。 また、導線を確保し移動がしやすいようにしている。